

2月 園だより

<教育目標> ・元気に遊ぶ子ども
・豊かに感じる子ども
・考え工夫する子ども

R4. 1. 31 文京区立本駒込幼稚園



幼稚園の中の遊びの伝承

副園長 山下 美幸

暦の上では、間もなく立春を迎えますが、まだまだ寒い日が続いています。寒さをものともせず元気遊ぶ子どもたちの歓声が園内に響き渡っています。

先週の月曜日に、本園のシンボルツリーであるセンダンの実がたくさん落ちていました。それを集めて遊び始めたのが年少ちゅうりっぷ組です。かごいっぱい集めて、料理ごっこに使ったり、坂道を作った板積み木に転がしたりする姿が見られました。時折吹く北風が冷たいと感じながらも、ひだまりの中で楽しそうに遊ぶ子どもたちの姿を見ると、心がほっこりとしてきます。センダンの木がある本園ならではの姿であり、毎年この時期に繰り広げられる遊びだと感じています。

先日、サッカーのコーチを招いてのわくわく運動遊びでは、すみれ組、さくら組が、ボールを使った遊びやサッカー遊びを教えてくださいました。活動の後半、子どもたちはビブスを身に付け、サッカーを行いました。特に喜んでいたのは、さくら組の子どもたちです。

ビブスは、年長すみれ組がリレーの時に身に付けていたもので、憧れの物だったと思います。それを身に付けられる嬉しさや誇らしさ、そして、サッカー選手になったような気持ちになって、楽しそうにボールを追い掛けていました。日頃から年長組の姿を垣間見て、「年長組になったらすてきなことができる」「かっこいい年長組になりたい」という思いも、自然と園内の年上の子どもたちから年下の子どもたちへと引き継がれているように感じました。

すみれ組では、竹馬や投げゴマに夢中になって取り組む姿が見られています。これらは、決してすぐにできるものではありませんが、根気強く、諦めずに頑張っている姿が見られます。すぐにできなくても、「できるようになりたい」という思いや「少しできたかもしれない」「なんとなくコツがわかってきた」という自分なりの手ごたえを感じたり、そこから、面白さを見出したりしているこそこの姿だと感じています。きっとこの姿も年中さくら組、年少ちゅうりっぷ組の子どもたちの目には、憧れの姿として、年長すみれ組になったらできるという遊びとして伝承していくと感じます。

感染状況が拡大している現状ですが、幼児の学びである遊びの場を保証し続けるということが私たちの教職員の使命だと改めて感じています。より一層の感染症対策が求められる中で、私たち教職員も幼児や保護者の皆様と同様に、毎日の体温、体調管理により一層努めてまいります。保護者の皆様、地域の皆様、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

